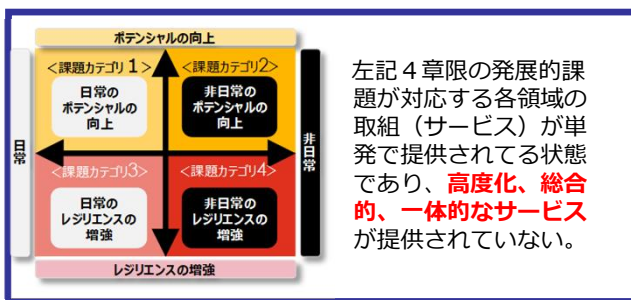


■都市課題



■解決方策

エリマネデジタルツインの仕組みの構築による区域の発展的課題の解決に向けた**エリマネDXの実装**(バックエンド)。

エリマネDXにおいて、リアルタイムにデータを活用することで、意思決定プロセスの変容が起こり、高度・総合的・一体的なサービスが創出され(フロントエンド)、街の価値として「**創造性**」「**快適性**」「**効率性**」が飛躍的に高められる。

■KPI

- 創造性:** イノベーションを**創造**し国際競争力あるビジネスを推進する**交流・出会い**のある街
- 快適性:** ウェルネスを高め誰もが自分らしく心豊かに**安心・安全・便利**に活動できる**快適**な街
- 効率性:** サーキュラーエコノミーを実現する**環境と親和**した街、**ロボットや自動化**を導入し**効率的**な街

■実証実験の概要・目的

「サービスの高度化、総合的・一体的なサービス提供」の実装に向けて、令和5年度については、下記対応を実施中。

フロントエンド: 対象サービス追加(移動販売ロボット実証)、「OhMYMap!」に関連したフロントエンドサービス検討(移動回遊バージョンへの統合化、最適化検討)

バックエンド: 大丸有地区におけるエリアマネジメントの活動・保有データ・データ活用の現状を把握した。エリマネデジタルツインとして各団体に共通的に提供していくべき横ぐし要素(データ)を定義し、当該要素(データ)による取り組みの高度化・効率化像よりシステムに求められる要求を整理し、要求事項を踏まえた入口としてのエリマネデジタルツインβ版と、都市OSの機能拡張(エリア情報管理機能)を実装。

■実証実験の内容

一体的なサービス提供に向けたデジタルインフラ構築

エリマネデジタルツイン構築

エリマネデジタルツインの構築により、複数存在する大丸有地区におけるエリアマネジメント団体がエリアの現状および個別サービスの状況を一元的に把握、共有可能となることで、取り組みの高度化・効率化がなされ一体的なサービス提供に寄与するという仮説を立てており、本事業にてその検証を行う。一元化したデータ群の来街者への一体的な提供によるエリア価値向上への寄与についても検証。

イベント情報管理システム構築

「エリマネデジタルツイン構築」の取り組みのなかで、一元化することの重要性を認識した「イベント情報」についてエリア内での集約する仕組みを構築。本年度はとして各種エリアイベント情報の収集に関する活動を実施。

一体的なサービス提供に向けたフロントエンドサービス

自動搬送ロボットサービス実証

期間: 2023年8月9日~9月21日

走行範囲: 丸の内仲通り

実施目的: エリアイベント連携環境下/日常時における自動搬送ロボットの活用可能性。ロボット実装化社会に向けた走行管理等の都市運営の在り方検討。



OhMYMap!による一体的なサービス提供に向けた方策策定

エリマネデジタルツインの取り組みにて一元化したデータ群を来街者へ発信・共有するチャネルとしての機能の在り方を検討。提供形態、チャネルの最適化を実施していく。

■実証実験で得られた成果・知見

以下3点の示唆が得られた。

- 各エリマネ団体間で**相互共有**することで**各取り組みの高度化**に資すると**想定されるデータが複数存在**しており、そのデータ群の一元化によるエリマネ活動の高度化及びデータ群の来街者等のまちな関わる**ステークホルダーへの共有・発信**により、まちな回遊性向上をはじめとした、エリマネ活動による**まちな新たな付加価値創出**が期待できることが分かった。
- 空間に紐づくデータの充実化や、対象となる空間をビル内の都市アセットに拡大していくことにより、**エリアマネジメントの各種取組み間の連携の拡大や有事・平時を連動させた計画・運用**が期待できる。
- エリアマネジメントにおいて所有するイベント等の情報を、2D及び3Dの地図情報・空間情報と紐づける形で管理・共有・公開することで、エリアマネジメント活動の高度化につながることも、**位置情報と紐づいた情報やサービスをより充実した形で来街者に提供しうる可能性**があることがわかった。



■今後の予定

令和6年度についてはフロントエンド: 引き続きのサービス追加とレコメンド機能の実装、バックエンド: 可視化対象エリアを拡大しつつ3Dデータ(BIM・Plateau)連携を実施。令和7年度にてフロントエンド: 複数サービス連携機能、バックエンド: エリアオペレーション追加機能の実装・実証を行いエリマネDXの大丸有エリアでの実装、他地域への横展開を目指す。